

平成 31 年度都立看護専門学校推薦入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

昔の人は今のように何もかもコピーしたり、録音できるわけではないので、記憶力が頼りでした。手紙や電報には、何がポイントか、をまとめる要約力が求められていました。

しかし今はなまじ便利になってしまったために、「今言ったこと、あとでメールしてください」とか、「この資料、スマホで撮影していいですか」など、メモする手間を面倒がって、便利な機器に頼ってしまうので、よけいにメモする力、要約する力が劣化してしまいがちです。

しかしメモすることを習慣づけていると、話のポイントを要約しやすくなります。そもそもメモ自体が自分なりの要約力ですから、メモを取る行為には要約力を鍛える効果があります。

というのも、速記者でなければ一言一句をメモすることは不可能なので、必然的に内容を要約してメモすることになるからです。何を聞いても、ササッとメモを取るくせをつけておくと、自然に要約力が身につけてきます。

仕事ができない人はたいてい要約力に欠けています。「あれほど言ったのに、どうしてこんなことが起きるのかな」「なぜ伝わらないのだろう」と思うときは、相手が話のポイントをおさえていないからです。

ポイントをおさえていないというのは、話を要約できないこととほぼイコールです。本当は話をした時点で「今言ったことをもう一度言ってみて」と聞いてみれば、話がどれだけ漏れているかがわかるのですが、職場は学校ではないので、相手に復唱を強要することはできにくい。

その結果、要点が漏れていて、あとで大変なことになってしまいます。

こういうズレがメモを取ることによって防げます。

出典：齋藤孝著（2018）「思考を鍛えるメモ力」 株式会社筑摩書房

（設問）

著者が伝えたいことを簡潔に要約した上で、「メモを取ること」について、あなたの考えを、体験を踏まえて 800 字程度で述べなさい。